

No. 549【2023年4月7日配信】

青森市の市史編さんと教育史（担当：工藤大輔）

こんにちは！ 室長の工藤です。

平成10年（1998）春、市史編さん事業を「3年間手伝ってほしい」という誘い文句にのって青森市にやってきて、とうとう25回目の春を迎えることになりました。

「青森市制百周年記念事業」のひとつに位置づけられた市史編さん事業は、平成8年4月に準備委員会が発足し、同年10月に編さん委員会・編集委員会が組織され編さん体制が整えられていきました。私が青森にやってきた平成10年度はちょうど市制100年の年で、5月24日には記念式典が催されています。

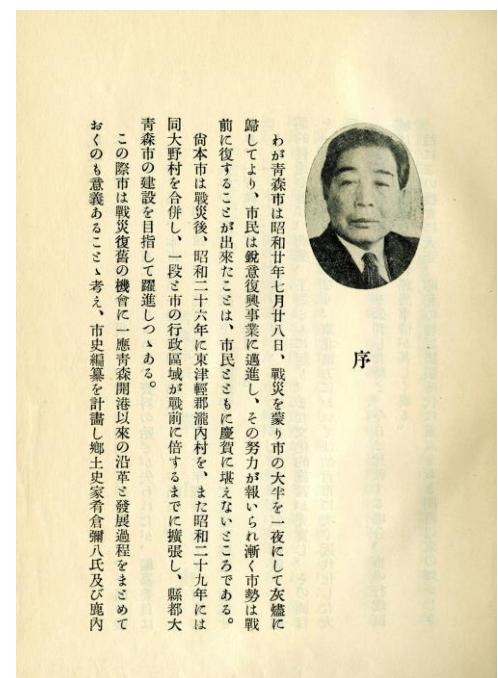
当時、私は近世史料の整理が主な仕事でしたが、編さん室全体としては事務長が中心となり「別編教育」の編集作業を進めていました。この「別編教育」は教育委員会がやはり「青森市制百周年記念事業」として作業をすすめていた『青森市教育史』の編さん事業を、市史編さん事業がスタートするのに併せてその一部として組み入れたものなのだと思います。そして、平成10年10月に『新青森市史』の最初の1冊として別編教育（1）が発刊となりました。

ところで、かつて青森市では昭和27年（1952）から『青森市史』編さんをしており、教育編・港湾編・産業編・政治編・人物編などを発刊しています。このとき編さんに関わっていたのが着倉弥八という人物で、昭和43年2月1日付の『東奥日報』夕刊「週間インタビュー」で、市史編さんの苦労話などを語っています。

それによれば、長島小学校が80年史を計画するにあたり、当時の校長先生がありきたりの校史ではなく「青森市教育史」的な性格を持つものにしたいと着倉氏に相談をしたのだそうです。着倉氏はそれを横山寅市長に話したところ「いや、そのような事業なら市でやるべきだ」ということになり、それが昭和29年発刊の『青森市史』第1巻教育編として結実しました。そして、昭和49年まで22年間の市史編さん事業として展開していくことになったのです。

自治体史の編さんにおいて、「教育史」の分野で本を1冊（または複数冊）仕立てることは多くはありません。むしろ珍しいといつてもいいかもしれません。

一方、『青森市史』『新青森市史』はともに「教育史」との縁が深い自治体史という特色があるのです。



『青森市史』第1巻教育編の序文